

## 審査の結果の要旨

氏名 ハンブルトン アレクサンドラ メイ

本論文は、新自由主義が席卷する成熟後の現代日本における女性のセクシュアリティに関するいくつかの事例の分析を通じて、マーケットプレイス・フェミニズムの可能性を考察することを目的としている。すなわち、女性の主体的なセクシュアリティに対して否定的な現代日本において、女性が自らの性について語ることができるのはマーケットを介した資本主義的な場面においてであり、女性のセクシュアリティに関する情報、グッズ、そしてセクシュアリティそれ自体も商品化される。しかしながら、こうした条件下であるからこそフェミニズムに対する意識が高まる可能性を秘めていることを本論文の全体を通じて説明する。

第一章では日本における女性解放運動の歴史を概観しつつ、その運動の中で快樂の重要性がいかにか軽視されていたかを論じると同時に、本論文における研究方法についても言及する。

第二章では女性誌「*anan*」の「セックス特集」に着目する。*anan*における年に一度の「セックス特集」は当初、若い女性たちに「自分探し」を促し、フェミニズム的要素を含む画期的な論調であったが、今日までにセレブリティに関する情報中心の、当たり障りのない保守的な雑誌に変化してきたことを明らかにする。この変化は日本における女性解放運動の変遷と類似している点も指摘する。

第三章では日本の性教育にめぐる問題を考察する。日本の義務教育下で行われる性教育において女性のセクシュアリティは一切語られない。しかしその一方で、出産・育児は国家の繁栄と共に語られると同時に「命の大切さ」という言説を中心に形作られている。本章ではこの点を明らかにするとともに、この言説との対抗を試みているいくつかの団体の活動に言及する。

第四章では日本の「大人のおもちゃ（バイブ）」業界を考察する。性に関してオープンに語るができない女性のために、性的な快樂を与えるグッズをファッションや美の一種として扱うことによって積極的に消費できるようにする一方、それらはあくまでも商品化されたものであり、また男根中心主義的なイデ

オロギーを追認させていることも合わせて確認する。

第五章では女性向けのアダルトビデオ（日本版ポルノグラフィ）を制作している企業、**SILK LABO** の活動に着目する。日本のアイドル文化を模倣し、「女性の視線」を重視することによってより消費しやすいコンテンツ制作を目指している **SILK LABO** の活動は、「男性の視線」を内在するアダルトビデオに対して挑戦的な一方、女性の欲望を商品化していることも事実であり、こうした女性向けアダルトビデオは果たして攪乱的で「フェミニスト」的な商品になるか否かを検討する。

経済においては華々しく成長した一方で、女性解放運動に関しては「敗退」したとも捉えられる現代日本において、運動ではない新しいかたちのフェミニズム—マーケットプレイス・フェミニズムが育ちつつある可能性を見ることができる。それは必ずしも大きな変動をもたらすものではないかもしれないが、女性自身がグッズやコンテンツの消費を通して自らのセクシュアリティに対して主体的にかかわる権利を持ち、その快楽から女として生きるうえで感じる不正義を語り合うこと、それこそがマーケットプレイス・フェミニズムにおける（小さくはあるが）勝利であることを第六章の結論とする。

いくつかの将来的課題は残されるものの、本論文は独創性、実証性、議論の一貫性などの点で卓越した成果であり、博士論文の水準を十分に超えるとの認識では審査委員全員が一致した。したがって、本審査委員会は、本論文は博士（学際情報学）の学位請求論文として合格と認められる。